

乙訓歯科医師会から健康教室

Dental Association Otokuni

口の中にできるがん(口腔がん)をご存知ですか？

園、恵解山古墳を散策。 化会館で開く。 京市今昔一昔の写真も紹 当日は、京都西山短大 ※向日市文化資料館
 サントリー京都ビール 子どもたちにとっては 介。 非常勤講師の百瀬ちどり (931) 1182

歯医者さんに行くのはお口のどのような病気の時でしょうか？むし歯や歯周炎(歯槽膿漏)という方が多いと思いますが、口内炎で受診されることもあるのではないのでしょうか。そしてその口内炎だと思っておられるものの中には、ほんのわずかではありますが「がん」の場合があるので

現在、日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。お口の中にできるがんは、全身の中では約1〜3%と希少がんに分類されるのですが、それでも年間約3000人の方が口腔がんでお亡くなりになり、咽頭にできるがんを合わせると7000人以上の方がお亡くなりになっていることとなります。

そして残念なことにその数は年々増え続けているのです。口腔がんは、早期発見・早期治療することによりほとんど障害を残すことなく治療ができるのですが、進行してしまうと大掛かりな治療が必要となり、食事や会話などの日常生活に大きな障害が生じてしまいます。

口腔がんの世界的な傾向に目を向けてみましょう。欧米における口腔がんの患者さんの数はほぼ横ばいだと思いますのですが、お亡くなりになる数は、日本が増加しているのに比べて欧米ではほとんど減っているのです。このデータから言えるのは、欧米では早期

にがんを発見できているということですので。この差はいったい何が原因なのでしょう。ひとつには口腔がんの認知度の差だといわれています。アメリカでは街を走るバスの側面全体に口腔がん対策を啓発するポスターが張られていたりして、口の中にがんができることは誰でも知っているのです。

もう一つの原因は歯科の受診機会にあるといえます。アメリカでは80パーセント以上の方が痛むところがあるわけでもなく予防のために受診するといえます。自覚症状がない時期に定期的にお口の中をチェックすることで早

期にがんを発見することができているのです。口の中にできるがんは胃や肺にできるそれと違って直接目で見て触れることができるケースが多いので、早期発見が可能なのは、早期発見が可能なはずなのです。

2週間以上治らない口内炎、特にあまり痛みのないケースは注意が必要です。喫煙される方は口内がんのリスクが高いといわれています。どうかかかりつけの歯医者さんに定期的なお口のケアをしていただかれ、その時には粘膜にも異常がないかチェックしていただきます。お口の中を定期的にチェックすること

欧米より低い認知度に課題 早期の発見で死亡率も減少

乙訓歯科医師会ホームページ <http://www.8020otokuni.com/>



長岡 育館が ンポリ 拠点に 育成か など、 プが、 今年 今年 ポーツ のが京 は長岡